

# 女性医療人教育実践センター支援室・平成21年度活動報告

看護師：武富貴久子・藤野ユリ子・石橋ふき子・森脇由起  
 学生アルバイト：手嶋美穂(医学部保健学科検査技術科学専攻)

## \* 支援室の紹介 \*

支援室には、非常勤及び短期アルバイトの看護師4名と保健学科の学生アルバイト1名が所属しています。それぞれが近い将来の社会復帰を視野に入れ、家庭での役割や、学業を修めながらきらめきプロジェクトの運営に携わっています。お互いに協力し、勤務時間を調整し業務を分担しています。

プロジェクト最終年度の平成21年度は、少し慣れてレベルアップした業務もあれば、きらめき活動で培った技能を使って別のプロジェクトへも参加するなど、活動の幅が広がりました。業務を通じて習得した技能は今後の復職の際に役立つ力となりそうです。

また、院内や学内の他部署と共働する機会も増えました。きらめきプロジェクトの活動も皆様に少しずつ知っていただいているようです。支援室の仕事が臨床業務の間接的なサポートにつながると、プロジェクト活動の意義も増し、私たちにとっても嬉しいことです。

### ～母子同伴出産～

産休をとっていた藤野は、平成21年3月31日に女の子を出産。8週間の産休を経て母子同伴での職場復帰を果たしました。支援室はベビーベッドと空気清浄機、土足禁止で環境を整え、支援室全員で育児に参加しました。



真由実ちゃんは満点の笑顔で皆を癒してくれます。現在、生後9カ月となり、すくすく育ってつかり立ちができるようになったため、ひまわり保育園に入園しました。ママはお昼休みに授乳に通っています。

## ◆ 支援室の主な活動 ◆

- I. ホームページ運営管理
- II. 電子教材作成とe-learning支援
- III. 医療人の健康と働きがいに関する調査

### I. ホームページ運営管理

#### 1. ホームページ運営管理

ホームページ上の掲示板を活用し、プロジェクトの広報活動や、情報発信、メール機能を使った交流や情報提供を行っています。



#### 2. 人材登録・ネットワーク構築

ホームページからの登録申請者の登録手続きを行っています。登録者は、Webライブラリーより学習教材が閲覧できます。



#### 3. Web学習教材(コンテンツ)配信

休職中の方の復職支援だけでなく、現職の医療者の方が参加できなかった講演会などをオンデマンドで視聴していただけるよう、九州大学Web学習システムを活用しコンテンツの配信を行っています。コンテンツは103に増えました。



また、視聴対象者の拡充と、九大関係者の登録手続き簡便化のため、平成21年2月18日より、九大病院の教職員は、SSO-KIDで、学生は学生番号でのログインが可能となりました。現在、九大医学部、医学府の学生と教職員合計4832名が閲覧可能な状況です。

### II. 電子学習教材作成とe-learning支援

#### 1. 電子教材作成

講習会・研修会等の収録(主催:看護部・臨床研修センター・小児科・小児外科・歯学部)し、編集作業、Web配信用データ作成を終えたデータをアップロードしています。



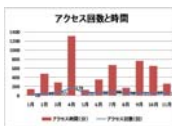
2. 臨床実習直前の看護学生を対象とした電子学習教材を作成し配信しています。(文部科学省教育支援事業「医療現場との情報双方向性を持つ保健学教育」へ参加しました。)

3. 九大病院看護部の新人看護師教育用DVD学習教材作成にあたっての収録・編集協力。



4. 他部署へのAudio Visual機材(Video機材・編集用機材)の貸し出し

5. 利用状況の記録  
e-learning利用状況を把握するために、コンテンツ閲覧アクセス状況のトラッキングを週一回おこなっています。



## III. 第2回医療人の健康と働きがいに関する調査(平成21年3月実施)

### <調査概要および総括>

平成20年度に実施した“女性医療人の健康と働きがいに関する調査”を発展させ、平成21年3月に九州大学病院の職員を対象として男性を含めた医療人(看護師・医師・歯科医師)の健康と働きがいに関する調査を行いました。

調査票には、回答者の属性や働き方、職業に関する満足状況についての質問や、主観的健康を測る精神健康調査票(GHQ30)及び首尾一貫感覚(SOC)というストレス対処能力をはかる調査項目を組み込みました。

今回の結果から、回答者は男女を問わず多くの役割を担って医療に従事しており、身体的にも精神的にも疲労を感じやすいことが示されています。また、主観的精神健康が低い人の特徴として、ストレス対処能力の得点が低くなっていました。このことは先行研究でも示され、そのような方は、自分に起きている状況を把握できる感覚が低くなっており、動機づけが低く、また周囲の人からのサポートを受けられていないと感じている状況にあるとされています。厳しい医療の現場で安心して仕事に集中するためには、周囲の方のサポートはもとより、個人では対応が難しい出産・育児や介護サービスなど社会的サービスが充実することが必要です。しかし、それらのサービスは利用のしやすさが求められていると感じます。

最近の研究では、仕事におけるストレスは、プライベートな出来事や私生活のストレスとも関連していることが指摘されており、仕事以外の時間が充実できるような働き方が求められているのかもしれない。

